

## ここに注目！



## 短期・中長期的視点に基づくコミュニティの形成

### ポイント

ペット広場や国際交流拠点の整備、まちゼミの開催などコミュニティの形成に重点的に取り組み、回遊性を高めることで各商店街の個性化につながっている。

### 【現状分析及び課題抽出】

### Plan

#### 理想ではなく実行できるビジョン作り

「武蔵まちづくり委員会」を組織し、地域住民や商業者へアンケート調査を行い、地区の現状や課題を整理。また、武蔵地区活性化ビジョンのコンセプトを策定、5つの基本方針（①金沢のまちなか生活が楽しめる住みたい街「武蔵」、②シニア世代も笑顔になれる街「武蔵」、③歴史と伝統を活かし新しい文化を生み出す街「武蔵」、④市場と老舗を活かした新たな賑わいをつくり出す街「武蔵」、⑤そぞろ歩きが楽しめる金沢のへその街「武蔵」）を設定、主要事業の具現化に取り組んでいる。

### 【対応策の優位性】

### Do

#### 特徴ある商店街の伝統と先進性を魅力に

街中にマンション建設が進み、定住人口が増加に転じる中、新住民は地域に馴染みが薄いことから、ペットを介した「まちなかドッグラン」（試行実験）に取り組んでいる。ペット広場は、地域コミュニティの拠点となり、地区の住民と新住民が多数集い、交流が促進されている。

一方、25年度に好評を博した「武蔵まちなかゼミナール」を、26年度は2回、パワーアップして実施。講座の相互紹介を介し、参加者相互の交流を促進させるとともに、個店の「点」から武蔵地区の「面」へ参加者の輪を拡げ、地区の魅力創造創出と地域コミュニティの形成に効果的・効率的に取り組んでいる。当期間中、「むさし再発見！むさし巡り」も行われており、更なる効果を生んでいる。

### 基本データ

金沢中心商店街武蔵活性化協議会

所在地：石川県金沢市武蔵町

人口：約46万人（金沢市）

会員数：342名

店舗数：342店舗（買回品小売店108、最寄品小売店48、飲食店112、サービス店27、その他47）

商店街の類型：広域型商店街

主な客層：主婦、高齢者、家族連れ

関連URL：<http://www.jiwamon.net>

### 商店街概要

百貨店を核とした武蔵商店街、市民の台所としての近江町市場商店街、老舗が多い尾張町商店街、東別院の参道として発展した横安江町・彦三商店街の5商店街で構成され、金沢駅から800m先の「武蔵が辻」を中心に位置しており、当地区から1000m離れた香林坊・片町地区と中心市街地の商業集積地を二分している。



好評を博した「武蔵まちなかゼミナール」

新住民が地域に馴染めるための「まちなかドッグラン」



### 【効果の評価及び改善策】

### Check-Action

#### コミュニティ形成にシフトした取組

コミュニティの形成にシフトした取組は、評価・検

証の上行っており、その結果、回遊性が高まり、にぎわい創出に効果が出始めてきている。これに呼応して各商店街においても個性を存分に発揮した活動を誘発しており、組合部会（常設）では、活性化ビジョン実現に向け更なる検証が行われ、今後の活動に期待される。

## 【実施体制等】

### 点ではなく面を考えた連携強化

「金沢市中心市街地活性化基本計画」（平成 26 年 7 月変更）の商業の活性化のハード・ソフト両面にわたって主要な柱として位置づけられており、地区まちづくり計画締結以来、金沢市と連携し、商業の活性化に取り組んでいる。ソフト事業においては、金沢市をはじめ、金沢商工会議所、金沢商業活性化センター（TMO）、武蔵ヶ辻周辺まちづくり協議会とも連携の強化を図り取り組んでいる。

これらの実施にあたっては、協議会に「武蔵まちづくり推進委員会」を設置、「まちなかを楽しもう」、「賑わいをつくろう」、「歴史と伝統を活かそう」の各部会（各 8 人）が、主要なメンバーとして企画から実施運営に至るまで参画し活躍している。



地域との連携を強化してまちづくりの取組を推進



### キーパーソン

金沢中心商店街  
武蔵活性化協議会  
会長 中島 祥博

### タイムリーな情報共有で皆が同じ視点へ

絵に描いた餅（理想）でなく 5 年後に実現出来る「武蔵地区活性化ビジョン」を作り、従来の歩行者天国などのイベント中心の活動内容を見直しました。

そして、いつも同じ人でなく、新しい人が参加できるように人材の活性化と組織内の意思疎通の円滑化のために 3 部会を構成し、キー（Key）となる事務局機能強化のために人材強化を実施しました。しかし、特に若手や女性の発掘は未完成で、これからの課題となっています。

また、祭りを中心とした顧客総動員という考え方を改め、地域商店街が実際に恩恵のある活動内容や地域として将来的に求められているニーズを検証して、コミュニティ形成を視点にした「武蔵まちなかゼミナール」「まちなかドックラン」「武蔵見える化」「新幹線開業に伴うおもてなしプラン」等新事業を立ち上げる事が出来ました。

個性ある商店街が一つとなって協議会で活動することにより、回遊性を高め、にぎわい創出の効果も高まりますが、反面温度差が生じることもあり、タイムリーな情報共有が必要不可欠だと部会等の議事録をメーリングリストにより全員に配信することで解消に努めています。

### 「まちあるき」のハブ拠点を目指して

武蔵地区は、中心市街地の金沢駅と各観光地区、商業地区の中央に位置しており、「まちあるき」のハブ拠点となるところです。そのため、金沢駅前、片町、香林坊などの中心商店街やまちづくり会社、金沢市と連携を強化し、武蔵地区の問題点を再度洗い出し、従前の慣習に拘らず新しいチャレンジをしていきたいと考えています。

地域活性化にどれだけ役立っているかという疑問が「武蔵活性化ビジョン」の原点であり、そのためには何が地域から求められているかを考え、地元のファンを、特に若い世代のファンを作っていくことが、次世代の武蔵地区活性化へつながると考えています。また、地元の人を大切にしつつ、北陸新幹線開業以後の増加する観光客に対する地域の受入、おもてなしを強化していく必要もあると考えています。時代に合わせて変化できる武蔵地区を目指して、何が望まれているかを地道にマーケティングし続けます。